

稲作情報

No.3 「除草体系と中干し」

JAえちご中越 さんとう宮農センター
R8.4.10 発行 TEL: 0258-41-2887



作付条件や作業工程に応じた除草体系で効果を最大化しよう！

1. 雑草の生育と本田除草剤の処理時期限界を把握しましょう！

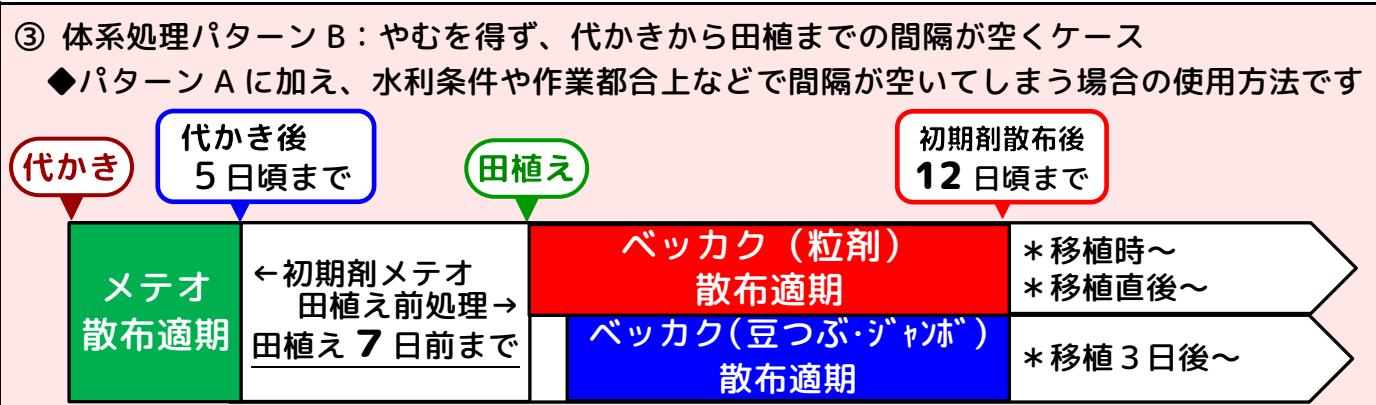
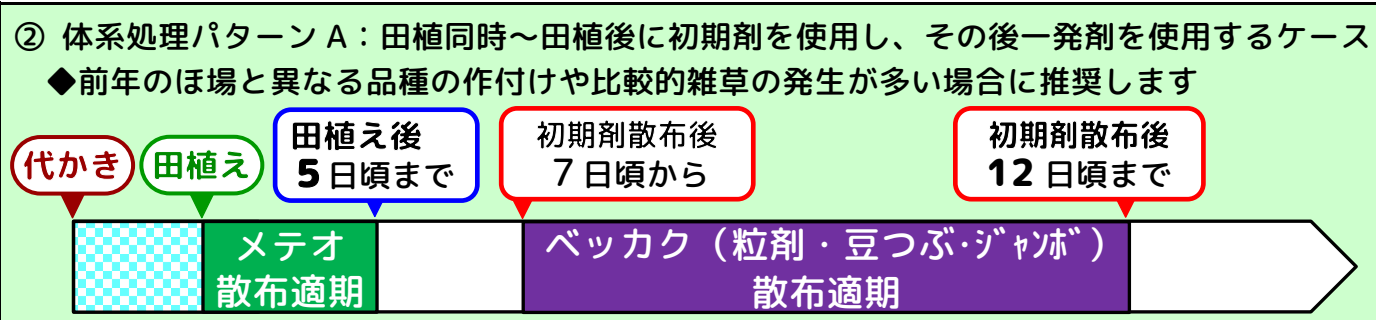
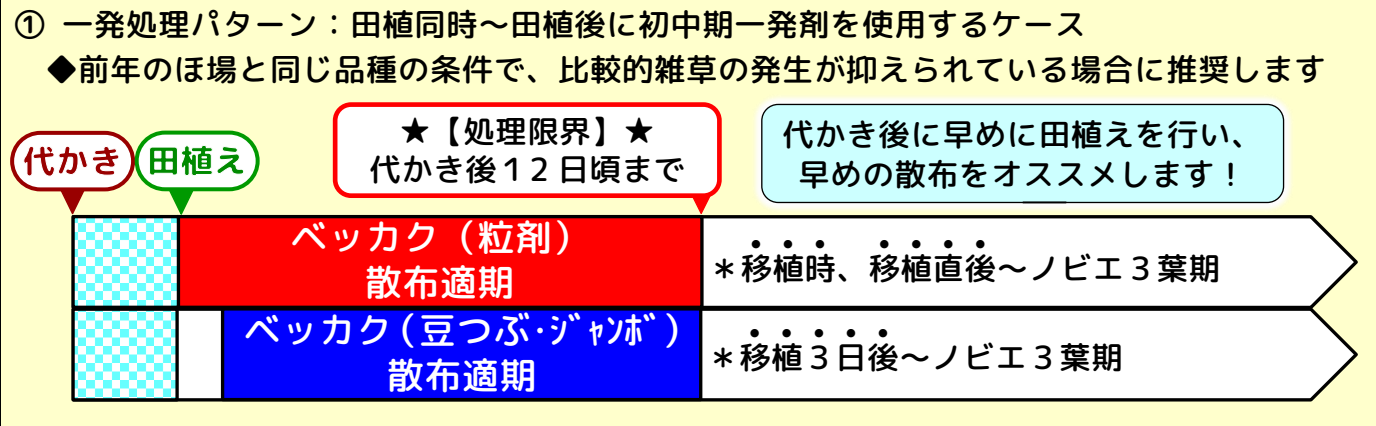
【代かき後日数と雑草の生育目安】

ノビエ	ホタルイ	代かき後日数	メテオ（初期剤） →ノビエ：1葉期まで →ホタルイ：発生前～発生始期まで
-	0.5～1.0葉	5日	ベッカク（初中期一発剤） →ノビエ：3葉期まで →ホタルイ：3葉期まで
1.2～1.8葉	1.0～1.5葉	7日	
2.0～2.1葉	1.5～2.0葉	10日	
2.7～2.8葉	2.0～3.0葉	12日	
3.3～3.5葉	3.0～3.5葉	15日	

メテオとベッカクでは使用できる雑草の生育ステージが異なるので注意してね！



2. 雑草発生程度や作業工程に応じた除草パターンを選択しましょう！



3. 除草剤使用の留意点

- ① 除草剤散布後、最低でも4～5日間は湛水状態を保ち、かけ流しや落水をしないようにします。
- ② 除草剤は剤型により水張りの高さが異なります。
→粒剤・フロアブル：3～5cm、豆つぶ・ジャンボ剤：5～7cm程度を基準とします。
- ③ 気象予報を確認し、風の少ない時間帯（朝・夕）で早めに散布しましょう！
→風により薬剤処理層が流れると、成分が集中した場所で薬害が懸念されます。
→発生してからでは手遅れになります。適期散布と適正な水管理を徹底しましょう！！

4. 品種に応じた基肥の施用量を確認しましょう！

特栽米の施肥例	品目名	10a 施放量	窒素成分	10a 窒素成分量
コシヒカリ【分施肥体系】	越後の輝き有機50元肥エコ	30～35 kg	10%	3.0～3.5 kg
コシヒカリ【一発基肥】	越後の輝き有機50スーパー元肥ロング	45～50 kg	12%	5.4～6.0 kg

※近年の気象条件に対応した各品種の施肥基準はJAのホームページ等で確認して下さい。

5. 箱施用剤で病害虫防除を徹底しましょう！

- ① 次表①～③に当てはまる場合には、必ずいもち防除成分を含む箱施用剤を活用しましょう！！

① 発生しやすい地域	中山間地域や朝霧の晴れにくい・風通しの悪い沢地など
② 発生しやすいほ場	転作あとなど 過剰生育しやすいほ場、ケイ酸質不足のほ場
③ 発生しやすい品種	新之助・わたぼうし・越淡麗・こしいぶき など

※いもち対策にはブーンパディート箱粒剤がオススメです。いもち病菌の侵入菌糸の進展を阻害～死滅させる病害抵抗誘導剤を含み、イネに対する高い安全性と長期残効を有しています。

- ② 箱施用剤の散布量をしっかり守りましょう！
散布ムラや施用量が不足すると十分な薬剤効果が得られず、残効低下の早まりに繋がります。また、不十分な効果により抵抗性の発達が加速する可能性があります。
→「10aあたり使用量1kg」散布のため、1箱あたり使用量を調整しましょう。
◆使用例：20箱/10a 田植えでは50g、15箱/10aでは66g、10箱/10aでは100g
→ $1\text{kg} \div 10\text{a}$ あたり使用苗箱数で使用量を調整します。

6. 田植え後の管理を徹底し、収量向上を目指しましょう！

- ① ワキの多発生に注意しよう！
「ワキ（異常還元）」は、土壌中の有機物（稲わらなど）の分解により発生したガス等が原因となり、生育の停滞や時には枯れ上がってしまうなど、その後の生育や収量に大きく影響します。今春は、昨秋のひこばえの増加によるワキの多発生が懸念されます。また、5月下旬から6月上旬は1年の中で最も日照時間が長く、地温の上昇にともないワキが発生しやすくなります。

- ◆春期の発生前対策として早めの耕耘を行いましょう！
→圃場の排水を促し、乾土化した圃場状態で耕耘し有機物の分解を早めます。また、その際に土づくり資材（稲作情報No.1参照）の投入も有効です。
- ◆発生後の基本対策は水の更新（ゆっくり落水）です。その後は“浅水管理”を継続します。
- ◆発生後の水更新以外には対策資材を使用します。
→「田んぼの鉄人」等の鉄資材を散布しましょう。



② 葉いもち対策をしっかり行おう！

◆放置されている補植苗は、いもち病の発生源となります。補植後および活着を確認したら速やかに撤去しましょう。

◆いもち病の発生しやすいほ場や品種で箱施用剤による葉いもち防除を実施していない場合は、6月10日頃（中干し開始前）までに**予防剤**による防除を徹底しましょう！

資材名	10a使用量	使用時期	備考
ブーン粒剤	1kg	いもちの初発前まで（収穫30日前まで）	湛水散布（3～5cm）

③ 茎数過剰は葉いもちの発生を助長→適期中干しにより**過繁茂を防止**する！

7. 適期中干しと溝切りを行いましょう！！

① 中干し開始のめやす… 移植後**25日**を目安に必ず圃場で茎数を確認しよう！

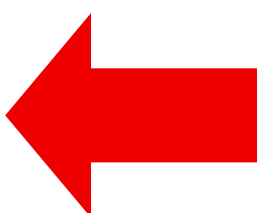
◆標準的なほ場では**通常**（目標穂数の**80%**程度）を確保したら速やかに実施しましょう。

→生育過剰になりやすいほ場では、**早め**（目標穂数の**70%**程度）を基準とします。

◆遅すぎる中干しは**倒伏の助長**と**品質低下**を招くため注意しましょう。

品種名	目標茎数 80%指標	栽植密度に応じた 1株あたりの中干し開始の目安		標準的な田植日に 基づいた（平年） 幼穂形成始期
		50株/坪植え	60株/坪植え	
ゆきみらい	304本/m ²	18～20本/株	15～17本/株	6月20日頃～
五百万石	260本/m ²	15～17本/株	13～14本/株	
わたぼうし	280本/m ²	16～18本/株	13～15本/株	
ゆきん子舞	336本/m ²	19～22本/株	16～18本/株	6月25日頃～
こしいぶき	320本/m ²	18～21本/株	15～18本/株	
ゆきの精	304本/m ²	18～20本/株	15～17本/株	
たかね錦	252本/m ²	15～17本/株	12～14本/株	7月1日頃～
こがねもち	296本/m ²	17～20本/株	14～16本/株	
コシヒカリ	280本/m ²	16～18本/株	13～15本/株	
にじのきらめき	256本/m ²	15～17本/株	12～14本/株	7月5日頃～

幼穂形成期より
前に中干し終了！



幼穂形成始期の
10日前頃に
中間追肥！

③ 中干し終了の目安について

◆中干しは“**小ヒビ**が入り、**軽く足跡がつく**程度”になったら終了することを基本として、地耐力が確保できるよう、ほ場ごとに期間・強さを調節しましょう。また、中干し終了は**遅くとも出穂1ヵ月前の幼穂形成期までには終了**します。

◆中干し終了後は、**根の健全化・うわ根の発生促進・地耐力の維持**に努める必要があります。



強すぎる中干し(大ヒビ)厳禁!

- ① 根の断裂等により、幼穂形成期から急激に葉色低下します！
- ② 高温障害を受けやすくなります！
- ③ 除草効果が急激に低下します！

8. ケイ酸・加里の中間追肥で登熟を良好にしましょう！

稲のケイ酸吸収量は幼穂形成期以降に多くなるため、ケイ酸の中間追肥は水稻の**品質・収量向上**に対する効果が期待できます。加里もケイ酸とともに登熟を良好にします。

◆ケイ酸には耐病虫害性の向上・倒伏軽減・高温障害の低減効果に加え、光合成促進によりデンプン生産量を増加させ、登熟歩合向上の効果が期待できます。

◆加里には葉で生産されたデンプンの糊への移行を促進し、低日照下では光合成の低下を抑え収量低下を防ぐほか、根腐れ・ごま葉枯病の病斑拡大を抑制する効果があります。

肥料区分	資材名	10a使用量	施用時期
ケイ酸	スーパーシリカプレミアム	20～40 kg	出穂前 30～40日頃
	ニュー米スター	15～30 kg	出穂前 40日頃
ケイ酸+加里	けい酸加里プレミア34	20～40 kg	出穂前 35～45日頃
加里	塩化加里60%（粒状）	7～10 kg	出穂前 40日頃

② 溝切りは全ほ場で実施し、長雨・渇水・異常高温等の気象変動に備えよう！！

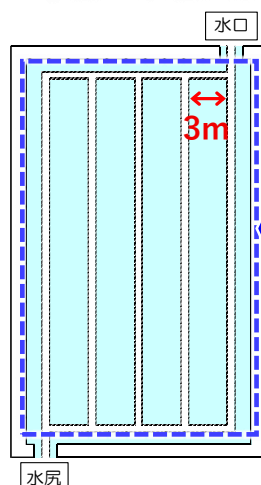
◆落水～2・3日は地固めし、その後溝切りを行います。

◆溝切り間隔は、最低限**10条**（3m）に**1本**とし、深さは**10cm**以上を確保しましょう！

→ 軟弱圃場では、溝と溝の間隔をせまくして溝数を増やします。

→ 田面の高低差等に応じて、有効な場所に溝を切りましょう。

◆溝の末端は必ず排水溝（水尻）につなぎます。



【溝切りの施工図】

*点線部
乾きにくい圃場、水か
かりのわるい圃場は、
額縁状にもう1本溝
を追加することで、異
常高温・フェーン時の
迅速なかん水対策、長
雨時の排水対策とな
ります。

中干しと溝切りの効果とは？

◆中干しの効果

- ① 無効分げつの発生を抑制＝適正生育量の確保
- ② 土壌への酸素供給＝根の健全化
- ③ 下位節間の伸長抑制＝倒伏軽減
- ④ コンバイン収穫作業が可能な**地耐力の確保**

◆溝切りの効果

- ① 中干し効果の**安定化**
- ② 中干し以降の**水管理**や**異常気象の対応**（高温・強風フェーン、大雨・長雨等の緊急時の給排水）が容易となる。



☆☆☆ 道路と畦畔をキレイにしましょう！ ☆☆☆

道路
清掃

作業後の泥土の放置は危険です！

耕耘・代かき・田植作業後に道路に落としてしまった土や泥は速やかに撤去しましょう!!道路に落ちた土や泥のかたまりは、歩行者や車両などの「通行の妨げ」になります。

ほ場から出る際には、トラクター等の農耕車輛についた土や泥を落としましょう!!



雑
草
対
策

草刈りを徹底しましょう！

越冬・孵化した“越冬世代幼虫”は、**農道・畦畔等のイネ科雑草を寄主・工サ場として増殖します!!**カメムシ類の密度を低減し、被害を軽減させるために地域全体で対応しましょう。
春先からイネ科雑草を出穂させない**雑草管理を徹底**しましょう!!

“ただちに除草” 指名手配:「雑草」

メヒシバ

ナギナタガヤ



～次回の営農情報は6月上旬頃の予定です。春の繁忙期、安全作業を心掛け頑張りましょう！～